
また春がくる

紫華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

また春がくる

【Nコード】

N9031S

【作者名】

紫華

【あらすじ】

大好きで大好きで大好きな人がいた。だけど、彼は私の目の前で死んでしまった。それから恋なんかしなかった。そんな私の前に現れたのは彼にそっくりな人。

私は、誰が好きなの？

二人を重ねてみてるだけ？

ゼロ

大好きで大好きで仕方なかった。
幼い恋だって言う人もいるかもしれない。
でも、私たちは本気だったし真剣だった。
ずっと一緒にいられると思ってた。

「蓮^{レン}!!」

「莉亜^{リア}!!」

いつだって、どんな時だって私が横を見れば蓮がいた。
悲しい時も、寂しい時も。
反対に、嬉しい時も、楽しい時も。

なのに。
どういうこと?
どうして?
なんで?

道路に飛び散る紅い液体。

それは、蓮のもので。

私の目の前に蓮は倒れていて。

ねえ、蓮。

どうして私を置いて逝ってしまったの？

いち

「今日から莉亜も大学生ね。」

そう言ってお母さんは嬉しそうに笑った。
そっか。

私ももう大学生なんだ。

蓮がいなくなっってからもう5年、か。

蓮はいつも私のそばにいた。

赤ちゃんの頃からずっと。

中2の夏、交通事故で死ぬまでは。

あの日、私たちは市民プールに出かけていた。
ふたりで散々遊んで。

疲れたね、もう帰ろうかって。

帰り道のことだったんだ。

一人の女の子が道路に飛び出した。

そして、その女の子に迫るトラック。

一瞬のことだった。

私の横を影がすって通った。

次の瞬間。

キキーン。

バーン。

すごい音がした。

気が付くと私の隣に蓮はいなかった。

そして道路に広がる紅。

しゃがみこんだ女の子が泣いていて。

蓮？

蓮はどこ？

気づきたくなかった。

でも、気づいてしまった。

アノテハダレノテ？
ワタシノヨクシッテルテダ。
ソウ、アレハ……。

「蓮っ！！！！！！」

駆け寄った。
だけど、蓮はぴくりとも動かない。
ぐしゃぐしゃにつぶれてしまった体。
もう二度と動かない、私の大事な人。
大好きな人。

それからのことはあまり覚えていない。
ただ、蓮のお葬式で涙が出なかったことだけは覚えてる。
悲しいのに。
泣きたいのに。
体がついていかない。
ううん、たぶん頭も上手く働いていなかった。
あれから、私は一度も泣いていない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9031s/>

また春がくる

2011年10月7日00時35分発行